



# 美豆だより

特別号

令和2年10月吉日  
京都市立美豆小学校  
校長 前田 恵美



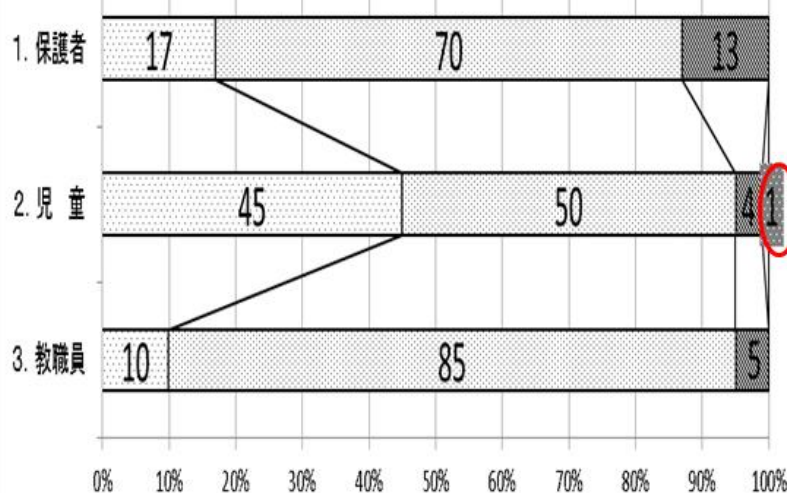
さわやかな秋の風がかおる今日この頃です。日頃は本校教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。

お忙しい中、先日は学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にし、学校・保護者・地域が一体となった取り組みを進めていくために活用させていただきます。子どもたちの学校生活をよりよいものにすることをめざし、実施しています。アンケート結果や各種学校評価指標に基づく自己評価、前期学校評価をご報告します。

## ☆令和2年度前期学校評価☆

1 保護者 子どもは確かな学力を身に付けている  
児童 授業はよくわかる  
教職員 子どもたちに確かな学力が身につくように指導している

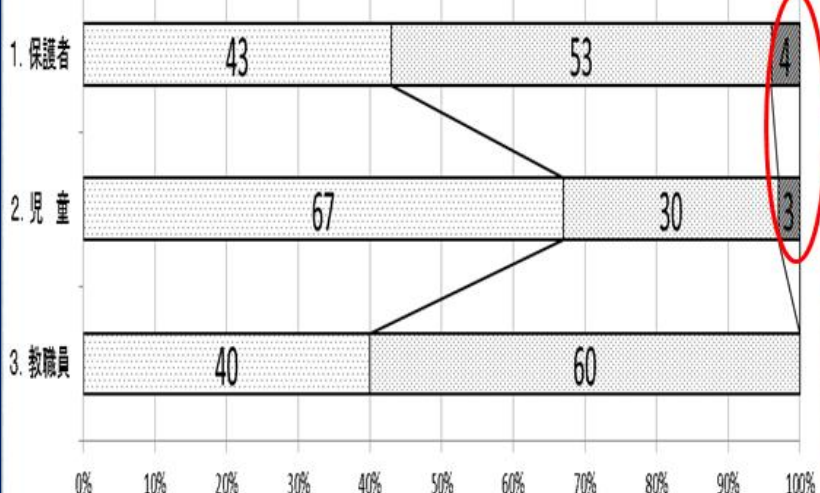
□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



3者とも、おおよそ肯定的な意見が多くを占めているが、1%といえども授業が分からないと答えている児童がいることを真摯に受け止め、授業の改善に努めていきたい。

2 保護者 子どもは楽しく学校に通っている  
児童 今 学校は楽しい  
教職員 子どもたちが学校で楽しく過ごせるように状況把握に努めている

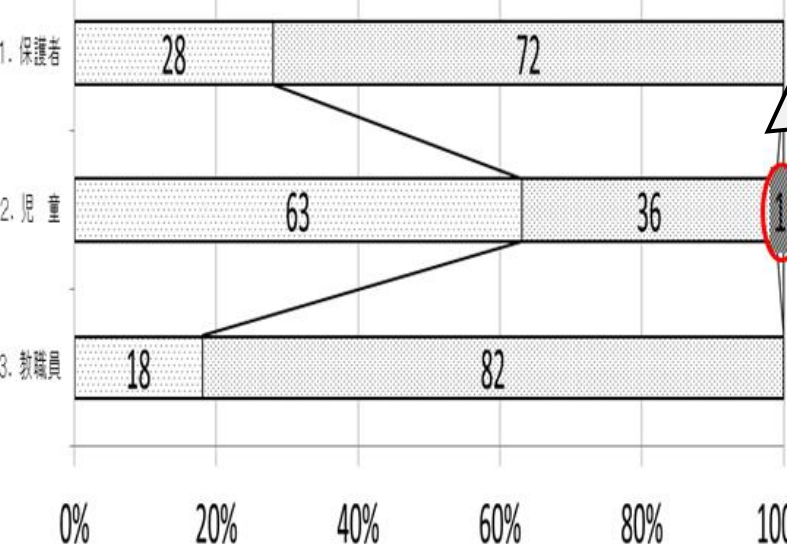
□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



児童にとって学校は楽しく通える場所であることが大切で現状はおおよそ叶っている。しかし保護者・児童ともに、楽しく通えていないと感じている現状を改善していく必要がある。

3 保護者 授業はわかりやすく工夫されている  
児童 先生は丁寧に教えてくれる  
教職員 教材研究に努め、わかりやすい授業を工夫している

□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

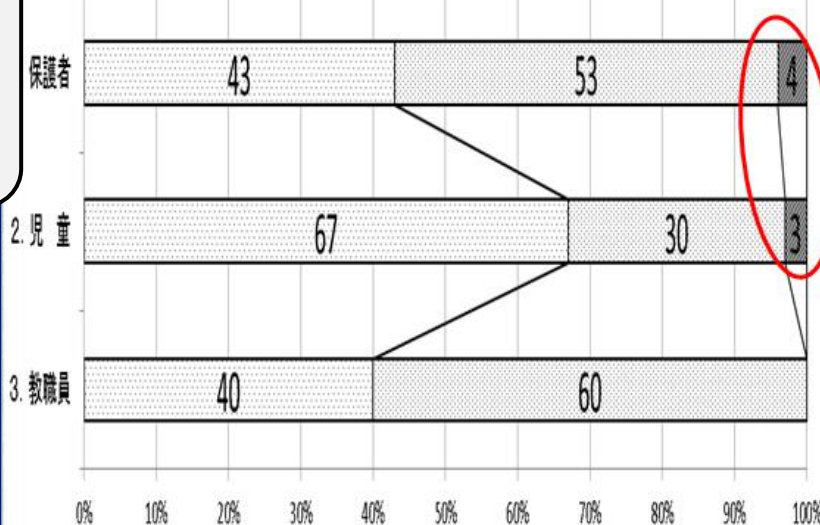


今年度、算数のテスト前に、4～5人の教師がクラスの入り、練習問題に取り組めるようにしています。全ての子どもたちが分かるための取組です。

授業がよくわかる同様、わからないと感じている児童を、学級担任だけでなく、学校全体でも支えていけるような場の設定が必要である。

4 保護者 教職員は子どもの思いを受け止め、丁寧な対応をしている  
児童 困ったことがあれば先生に相談している  
教職員 子どもや保護者の思いや願いを受け止め、丁寧に対応している

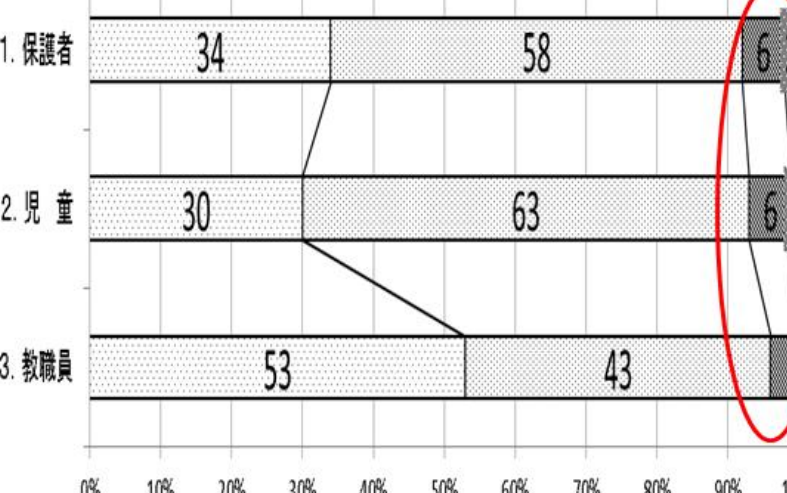
□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



教職員は、保護者や児童の思いを丁寧に受け止めるよう努めているが、自ら言い出しにくい場合もあることを念頭に置き、児童に寄り添う姿勢を持ち続けたい。

5 保護者 学校は人権を大切にしたい学級づくりをすすめている  
児童 友達や周りの人のことを考えて、優しくすることができる  
教職員 子どもたちに人権を大切にする態度が身につくように指導している

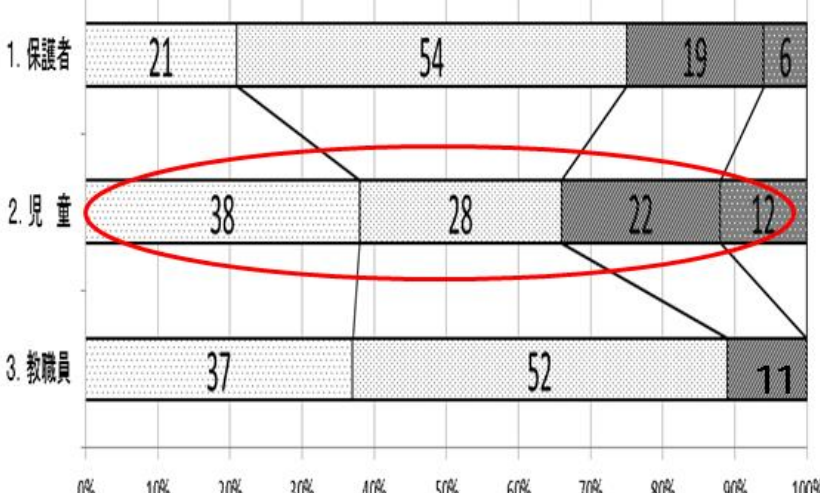
□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



「人権を大切にしたい」や「優しくする」といったような、抽象的な言葉ではなく、「人権を大切にすることはどういうことなのか」などを具体的に伝えていきたい。また、子どもや保護者の思いに耳を傾けられるようにしていきたい。

6 保護者 学校は子どもが家庭で進んで本を読むように自分から進んで本を読んでいる  
児童 子どもたちが進んで本を読むように取組を進めている

□ そう思う □ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

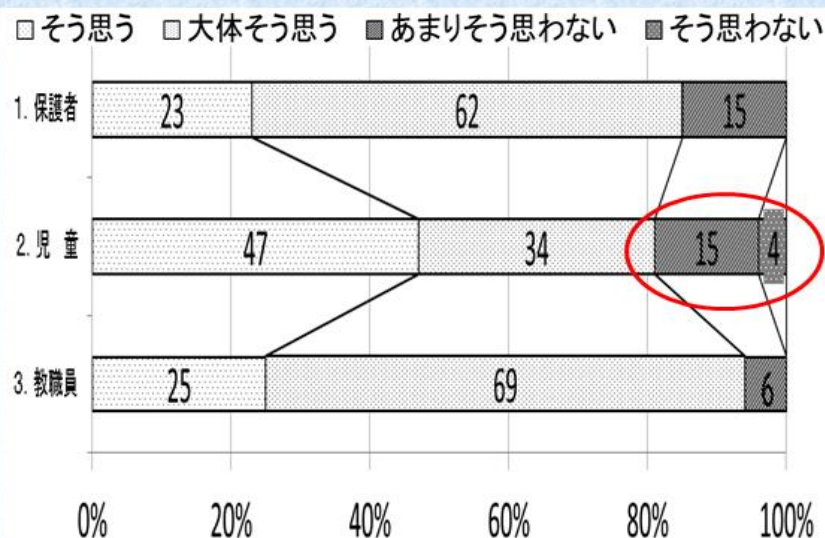


読書が習慣化するよう、朝読書に取り組んでいます。

例年、読書に取り組む児童とそうではない児童が両極に分かれる項目である。読書は広く学習効果にもつながるが、習慣化することが大切だと考える。義務としての読書ではなく、習慣となるような読書の取組を継続していきたい。

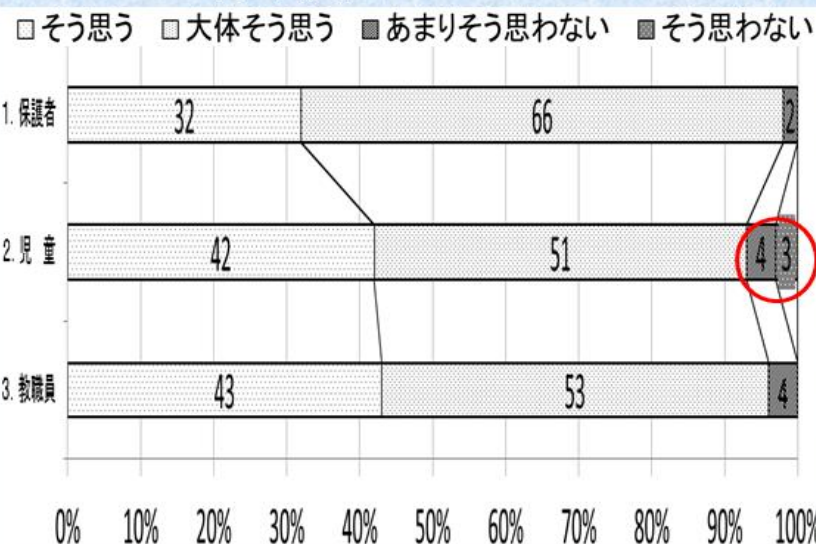


7 保護者 学校は子どもが家庭で学習に取り組めるような働きかけをしている  
 児童 家で宿題など、進んで学習している  
 教職員 子どもたちにあった課題を与え、家庭学習の定着を図る取組を進めている



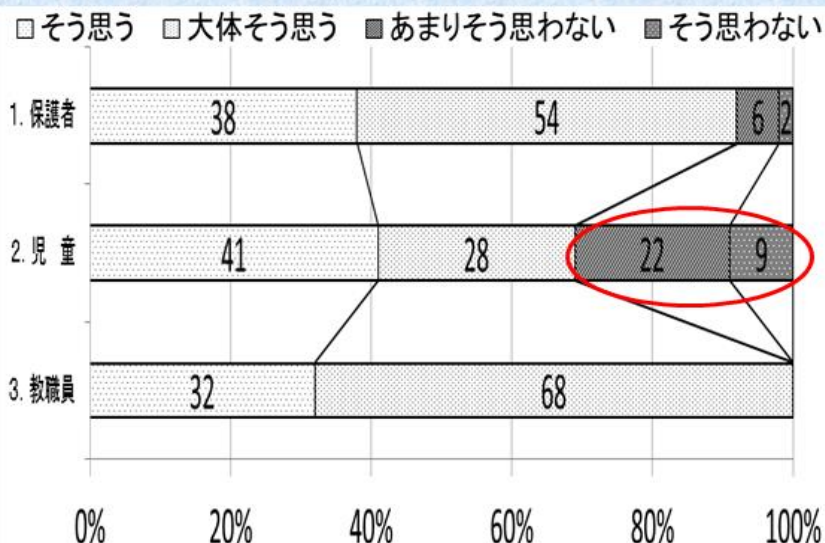
宿題を含め、家庭学習が定着してきている反面、取り組みにくい児童は変わらずいるということを実感に受け止めていく。一人で学習を進めることが難しい児童には学力補充や、習慣的に取り組めない児童には家庭との連携を含めた生活面の指導なども視野に取り組んでいきたい。

8 保護者 学校は子どもに学校のきまりや社会のルール・マナーを守るように働きかけている  
 児童 学校や学級のルールを守っている  
 教職員 子どもたちに学校・学級のルールや時間を守って生活できるように指導している



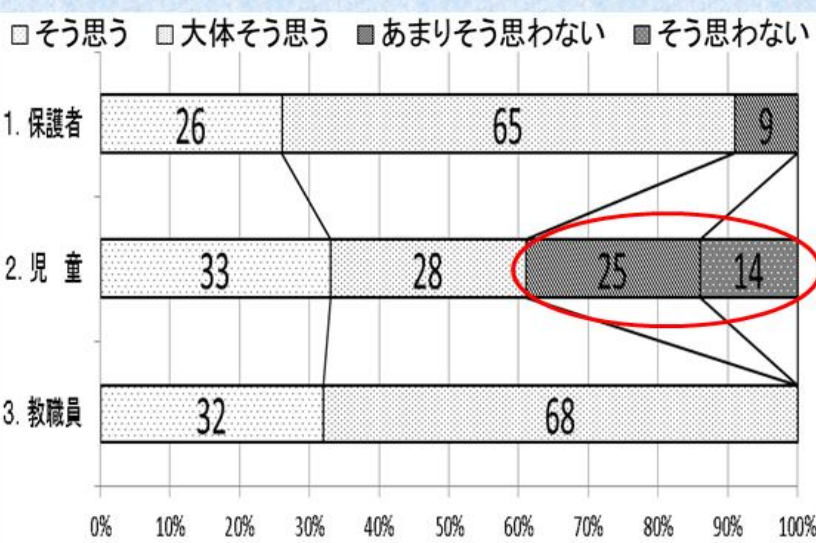
子どもたちの様子を見ていると、規範意識の高まりは感じられるが、欲求に対して自制しきることが苦手な様子が見られる。児童に寄り添いながら細やかな指導を続けていきたい。

9 保護者 学校は子どもにあいさつするように働きかけている  
 児童 自分から進んであいさつしている  
 教職員 あいさつすることの大切さを指導し、実践できるよう取り組んでいる



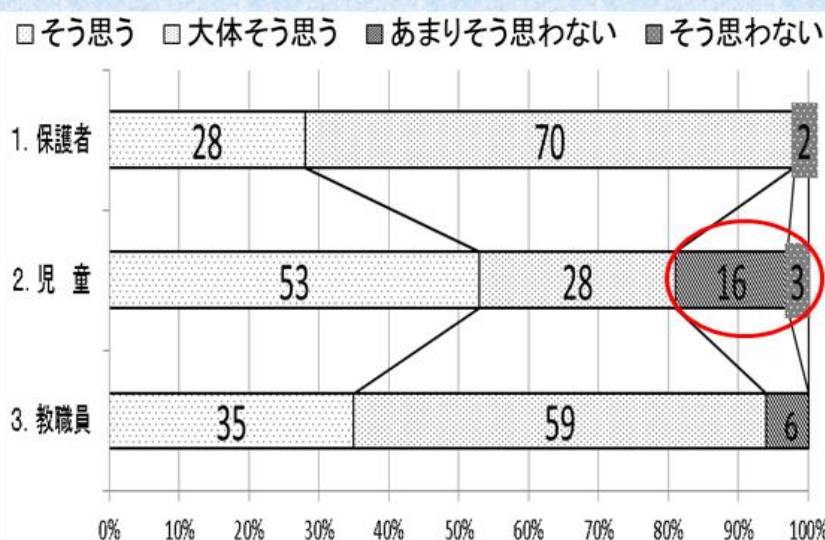
学校は、児童への働きかけ・取り組みを積極的に行っているが、児童への定着が難しいようである。学校だけではなく、家庭や地域でも実践する姿をより多く見せていくことで、児童の姿を育てていきたいと考えている。

10 保護者 学校は早寝・早起き・朝ごはんなど、規則正しい生活ができるように働きかけている  
 児童 学習時間やテレビ・ゲームの時間など、一日の中で時間を決めて生活している  
 教職員 子どもたちに規則正しい生活習慣が身につくように取り組んでいる



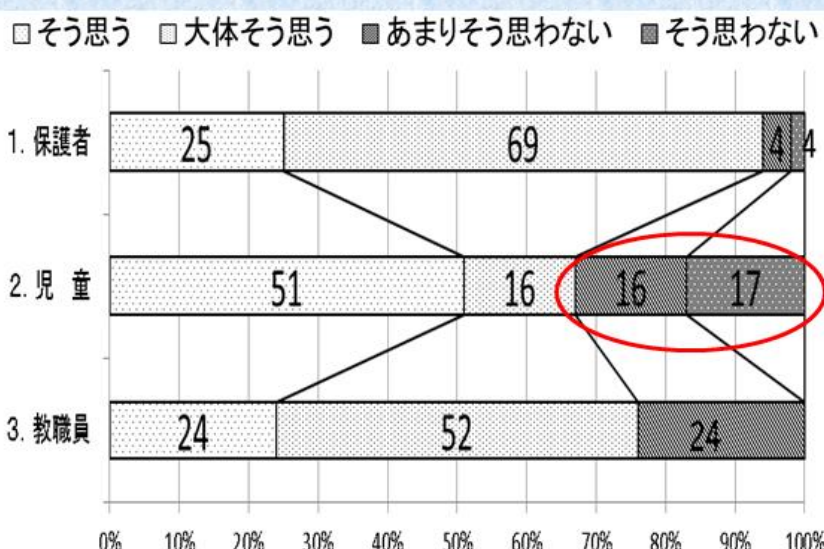
児童への質問内容に、テレビやゲームの時間という、具体的な内容が入っているために、大人の認識以上に「できていない」と答えた児童が多くなったと考える。しかし、実際ゲーム時間についてはなかなか自制できない児童も多いようなので、家庭内でもルールを決めるなどの協力を求めている。

11 保護者 学校は、取組の様子をわかりやすく伝える工夫や努力をしている  
 児童 学校であった事を家の人によく話している  
 教職員 学習予定表や学級通信などで、学級や子どもの様子をわかりやすく伝えている



学校からは迅速でわかりやすく、丁寧な発信を心がけている。学校からの情報をきっかけに、家庭での団らんや児童とのコミュニケーションのきっかけにしてもらえるよう発信していきたい。

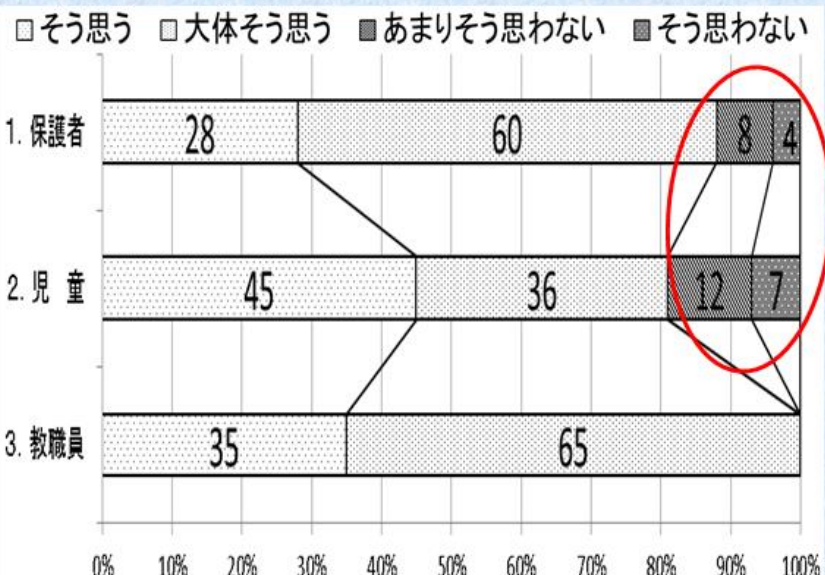
12 保護者 学校は子供が将来の夢や希望をもてるような取組をしている  
 児童 将来の夢や希望をもっている  
 教職員 将来展望をもてるような支援や取組をすすめている



今年度より、すべての子どもが生き方探究パスポートというファイルを持ち、継続した将来展望への取組を行います。

将来展望と自己肯定感は、同じように高めていく必要があると考える。どちらも実感できる児童とてきにくい児童の開きは大きくあるが、今後も視野を広げ、自己肯定感を高められるような取組を大切にしていきたい。

13 保護者 休校期間中の学校の対応（家庭学習・保護者や児童への連絡・情報の提供等）は適切であった  
 児童 休校中の学習など、自分で進めることができた  
 教職員 休校期間中の学校の対応（家庭学習・保護者や児童への連絡・情報の提供等）は適切であった



これまでに経験したことのない状況下で、いかに学校・家庭・児童をつないでいくか、学びを止めないかを模索していた。やはり届き切らないこともあったようであり、今回の経験を活かし、同様な状況が発生した時には、より丁寧な対応を進めたい。

## ☆学校関係者評価☆

読書習慣やあいさつ、規範意識など、子どもたちへ指導するだけではなく、大人が見本になるような姿を見せていくことが大切。保護者・地域でもその姿を見せていきたい。

本だけではなく、新聞を読むことを進めたい。

2ヶ月の休校を取り戻すかのように、普段よりも詰め込んだ学習が行われているのではないかと。子どもたちの様子をしっかりと見取った教育活動を願う。

色々な行事がなくなったり、行動に制約がかかったりする中でも、子どもたちはいきいきと過ごしている。その姿を見守っていききたい。

今後も、学校・地域・保護者の連携・共働のもと、粘り強く取組を進めていきます。